

平成23年度事業報告書



学校法人鳥取環境大学

平成24年5月

設立趣意書

21世紀を目前に控えた今、国際化や高度情報化の急速な進展がもたらす社会・経済構造の変化が進む一方で、環境問題や資源エネルギー問題の顕在化など、わが国は大きな変動の時を迎えている。

今日の環境問題は、身近な生活環境から地球温暖化など地球規模の問題にまでわたり、その多くは都市生活型の公害や地球温暖化にみられるように、日常生活や事業活動に伴って生じた環境への負荷の増大に起因している。これらの環境問題の解決を目指すとともに、豊かな自然環境を将来の世代に継承していくためには、これまでの大量生産・消費、廃棄型の社会経済システムや生活様式を変革し、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会を構築しなければならない。

環境をめぐる諸問題は、従来の学問が対象とする領域を超える複合的な問題として現れており、人と社会と自然との関係を広い視野から多角的・総合的に理解し、環境と調和した新しい社会経済システムの構築に創造的に取り組む人材の育成が求められている。

鳥取県は、多様で美しい自然環境や優れた生活環境に恵まれている。本県は、環日本海諸国との環境問題に関する交流・協力を積極的に取り組むとともに、平成9年には環境基本条例を制定し、環境を保全し、より快適な環境を創造し、将来世代に引き継いでいくことを謳うなど、豊かな自然環境を保全するため県として積極的に取り組んでいる。

しかしながら、鳥取県が次代においても自然環境や優れた生活環境を保ち、豊かさと活力に溢れる県勢の持続的発展を期すためには、これらの施策のみならず、地域の問題から地球規模の環境問題の解決に創造的に取り組むことのできる資質を備えた専門人材の育成が必要である。

鳥取県と鳥取市は、これらの時代と地域の要請に応え、環境問題について人と社会と自然との共生の理念を基本に取り組み、解決できる人材の育成と創造的な学術研究を目指し、国内はもとより国際社会で活躍する人材を養成する大学の設立を志すものである。

本学は、高等教育機関充実への県民の期待を背景に、公的な支援による高い教育研究条件を備えるとともに、自主・自立体制を構築することにより、私学の柔軟性や即応性を活かした大学運営を図るため、鳥取県、鳥取市の連携によって新たな学校法人を設立する「公設民営方式」とすることとし、民間の協力を得ながら設立するものである。

(学校法人鳥取環境大学寄附行為認可申請書より)

基本理念

鳥取環境大学は、「人と社会と自然との共生」の実現に貢献する
有為な人材の育成と創造的な学術研究を行うことを大学の基本理念とする。

目的

1. 教育

- ①教育を最重要課題として、自律的行動のできる健全な社会人を育てる。
- ②環境についての基礎基本とともに、各専門領域の知識や問題解決法などを身につけた人材を育成する。

2. 研究

- ①人と社会と自然との共生の実現のための研究に取り組む。
- ②各領域の専門性を活かしつつ、環境問題解決のために総合的に研究を推進する。

3. 大学の在り方

- ①グローバルな視点や意識をもちつつ、地域に根ざした問題に取り組み、また、大学の機能、知的資源を活用し地域に役立てる。
- ②すべてのステークホルダーを配慮しつつ、よりよい大学を目指し常に改善努力する。

沿革

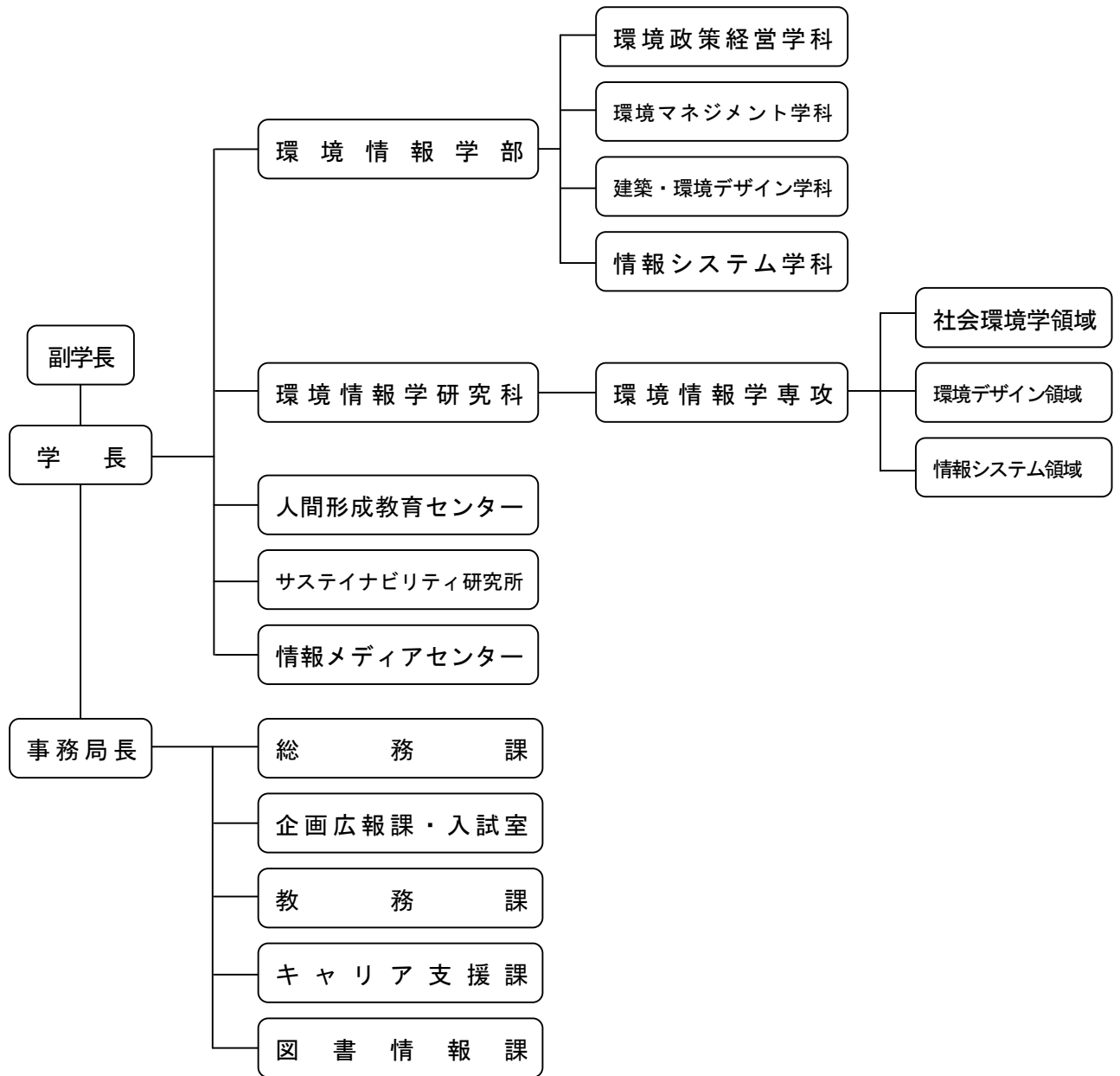
開学前

- 1995年** 鳥取商工会議所等から、「東部地区へ公立大学を設置」についての要望が鳥取県及び鳥取市へ提出される
- 1997年** 鳥取県と鳥取市が、有識者からなる「大学設立準備委員会」を設立し公設民営方式による新大学の設置について検討を始める
- 1998年** 「新大学基本計画」を県議会、市議会が了承
具体的な教育内容の検討と教員確保に着手
- 1999年** 文部省の許可を受けて、鳥取環境大学設立準備財団が設立される
文部省へ学校法人鳥取環境大学寄附行為と大学設置の認可申請
環境に配慮した様々な工夫を凝らしながら大学施設を建設工事
- 2000年** 文部省からの認可を受け、平成13年4月の開学が決定

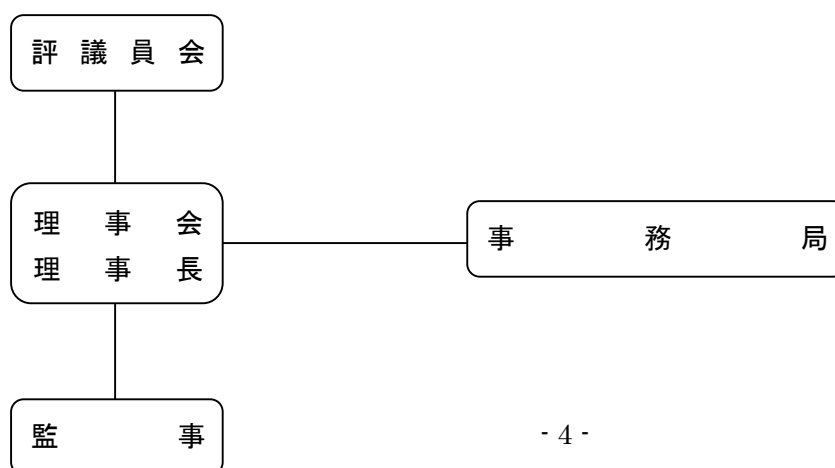
開学後

- 2001年 4月** 鳥取環境大学開学
[環境情報学部（環境政策学科・環境デザイン学科・情報システム学科）]
初代学長に加藤尚武就任
情報メディアセンター開設
- 12月** 研究・交流センター開設
- 2002年 2月** 清州大学校理工大学（韓国）との交流協定締結
- 7月** パリーベルビル建築大学（フランス）との交流協定締結
- 2003年 2月** ISO14001認証取得
- 9月** オーフス建築大学（デンマーク）との交流協定締結
- 2005年 4月** 大学院開設
[環境情報学研究科 環境情報学専攻（修士課程）（社会環境学領域・環境デザイン領域・情報システム領域）]
第2代学長に古澤巖就任
- 2006年 4月** 人間形成教育センター開設
- 2009年 4月** 環境マネジメント学科開設
環境政策学科を環境政策経営学科、環境デザイン学科を建築・環境デザイン学科へ名称変更
- 2009年 7月** 研究・交流センターを廃止し、サステイナビリティ研究所を開設
- 2012年 4月** 学校法人鳥取環境大学解散。鳥取環境大学設置者変更。公立大学法人鳥取環境大学設立。

大学組織図（平成22年4月現在）



学校法人鳥取環境大学 事務組織図（平成23年4月現在）



平成23年度事業報告書（目次）

1. 事業の内容

(1) 平成23年度重点事業に係る事業報告	・・・ p. 6
(2) 教育研究	・・・ p. 9
(3) 学生生活	・・・ p. 15
(4) 大学広報	・・・ p. 23
(5) 入学試験	・・・ p. 27
(6) 就職等進路支援	・・・ p. 30
(7) 学外交流	・・・ p. 37
(8) 環境関連活動	・・・ p. 42
(9) 情報システム関連	・・・ p. 44
(10) 法人運営管理	・・・ p. 46

2. 法人の概要

(1) 学校学部・学科等	・・・ p. 47
(2) 入学定員、学生数の状況	・・・ p. 47
(3) 教職員・役員の概要	・・・ p. 47

3. 財務の概要

(1) 経年比較	・・・ p. 49
----------	-----------

1 事業の内容

(1) 平成23年度重点事業に係る事業報告

ア 大学改革の推進

鳥取環境大学を魅力ある大学として生まれ変わらせるため、平成22年10月に鳥取県、鳥取市、鳥取環境大学で構成する新生公立鳥取環境大学設立協議会が設置され、具体的な取り組み内容について検討協議が行われてきた。

そこで決定された教育内容、大学運営、組織体制等の方針に沿って、具体的な取り組みについては、新生公立鳥取環境大学設立協議会と協議・調整を行い、協働して実施した。

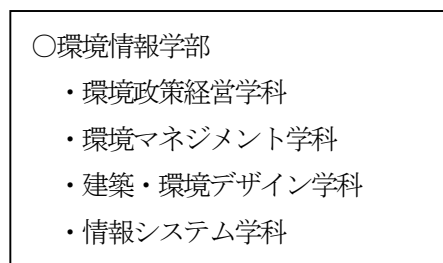
そして、計画通り平成24年4月の学部学科改編及び公立大学法人設立及び設置者の変更を行った。

○ 学部学科の改編

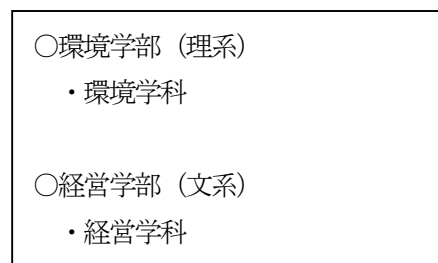
基本理念とする「人と社会と自然との共生」を目指し、自然環境の保全と人間の経済活動が調和した持続可能な発展を実現するため、環境学部と山陰地方初の経営学部の2学部体制とし、教育・研究の両輪とする。

また、学部学科改編に併せて、環境学部に中学校教諭・高等学校教諭一種免許（理科）の認定を受けた。

【現状】 1学部4学科



【改編後】 2学部2学科



(手続き日程等)

(I) 学部学科改編

平成23年5月 文部科学大臣へ環境学部、経営学部設置を届出

平成23年7月 届出の正式受理

(II) 教職課程認定

平成23年7月 文部科学大臣に教職課程認定申請書を提出

(中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種（理科）)

平成24年2月 文部科学大臣より教職課程が認定

(Ⅲ) 公立大学法人への移行

- 平成23年7月 鳥取県・鳥取市に学校法人所有土地・建物について寄附の申込み
- 平成23年9・10月 公立大学法人鳥取環境大学定款等について県議会、市議会で議決
- 平成23年11月 学校法人解散について理事会・評議員会で承認
- 平成23年12月 学校法人鳥取環境大学解散認可、鳥取環境大学設置者変更認可を文部科学大臣へ申請。公立大学法人鳥取環境大学設立認可を文部科学大臣、総務大臣に申請
- 平成24年3月 総務大臣及び文部科学大臣より公立大学法人鳥取環境大学の設立が認可。併せて文部科学大臣より鳥取環境大学設置者変更、学校法人鳥取環境大学解散について認可。
- 平成24年4月1日 公立大学法人鳥取環境大学設立。
学校法人鳥取環境大学を解散。
- 平成24年4月2日 学校法人鳥取環境大学の解散について登記。併せて清算人を登記。

イ 教育研究の充実

(1) 教育活動

本学の教育目標である環境マインドをもった専門家の育成と、学生の人間力を養成するため、教職員全員がその使命として学生の教育に全力を尽くした。

(2) 基礎学力対策

基礎学力が不足している学生や学ぶ意欲に欠ける学生について、必要とされる基礎学力の内容と学習に対する動機付けの方法を学内で検討し、必要な対策を講じた。

(3) 研究活動（サステイナビリティ研究所）

田中勝 所長を中心に次の研究活動を実行した。

研究内容	事業区分
日本からアジアに展開する廃棄物系バイオマス利活用による3R定着に関する研究	環境省補助事業
日本海に面した海岸における海ごみの発生抑制と回収処理の促進に関する研究	環境省補助事業
森林の価値創造並びに地域の活性化に係わる研究	智頭町芦津地区との研究協力事業
中山間地域（八頭町）の環境共生まちづくりと地域活性化に関する研究	八頭町との連携事業
再生可能エネルギーを核とした鳥取市における中山間地振興の基本戦略の検討	鳥取市の受託研究事業

なお、平成24年度には上記「日本海に面した海岸における海ごみの発生抑制と回収処理の促進に関する研究」に代わり、その研究をもととした「東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究」に取り組んで行く。

ウ 学生支援の充実

(1) 生活支援

家計基準による授業料減免、奨学金、家賃助成などの支援制度を継続した。また、平成23年度入学生の1年間に限り、従来の家賃助成2割補助が3割補助となることで、学生支援の充実を図った。さらに、平成23年度に本学のBDFバスの増便、マイクロバスから大型バスへ変更することで、より一層の学生支援に努めた。

(2) 学生フォロー体制

チューター制による履修指導に加えて、定期的に授業欠席が目立つ学生を把握し、それらの方に対する面談等を行っているところであり、引き続きこれらの学生フォロー体制により退学者・休学者の未然防止に努めた。

(3) 就職支援

就職内定率を前年度(75.2%)を上回るため、新たに鳥取県西部及び島根県を対象に就職支援担当参与を1名増員するなど、企業の採用情報を丹念に集めるなどきめ細かい支援を行い、就職内定率は89.0%となった。

就職に向けて学長塾を開設したほか、引き続き各種資格試験や公務員試験などを目指す学生の支援も実施した。

エ 魅力あるキャンパスづくり

学生がキャンパスライフを過ごす中で、安全性、快適性を確保するために、以下のグラウンド整備等を実施した。さらに、植栽管理をすることでより魅力あるキャンパスになるよう努めた。

- ・グラウンド復旧工事
- ・メディアセンター前木道改修
- ・LED照明を活用した学内の外灯増設
- ・植栽管理等の一部をシルバー人材センターを活用して実施

オ 教育職員評価制度の導入

教職員の意識改革、教育・研究レベルの向上、社会貢献の推進及び大学の活性化に向けて、教員評価制度の試行を実施した。この制度は23年度の結果を踏まえて、平成24年度から本格的に実施する予定となっている。

カ 大学広報の強化

平成24年度の学部学科改編・公立化に向け、定員充足するために広報関連を強化する。具体的に進学相談会、教員説明会、受験雑誌、WEB、新聞広告など、あらゆるメディアを活用して実施した。

特に、オープンキャンパス、高校訪問、教員説明会は、重点的に実施し、多くの志願者を確保することができた。

(2) 教育研究

ア 学部卒業生（平成24年3月31日時点）

環境情報学部	人数
環境政策学科	84名
環境デザイン学科	16名
情報システム学科	21名
合計	121名

イ 環境政策学科

社会科学と自然科学、二つの視点から総合的に環境政策や社会システムの立案ができる人材を育成する。

（教育目標）

- ・ 法学や経済学、経営学といった社会科学的アプローチを重視する。
- ・ 環境問題の発生基盤となる社会の構造や企業の役割を理解することに努める。
- ・ 環境問題が発生するメカニズムを自然科学的見地からも考察する。
- ・ 行政や企業などのフィールドで、総合的な視点から環境保全対策を立案することのできる能力を備えた人材を育てることを目指す。
- ・ 学生が夢中になり、楽しく学べる学科づくりを目指す。

ウ 環境政策経営学科

環境問題が発生するメカニズムから解決へ向けての取り組みまで、法律、経済、経営などの社会科学的見地から政策手法の立案力を養う。

（教育目標）

- ・ 経済や法律、経営等の文系科目に重点を置きつつ、自然科学的な視点も育成し、国や自治体等が抱える環境問題に対応できる人材を育てる。
- ・ 経営ビジネスに関する資格を有し、新たな企業の経営戦略や、国や地域の産業の持続的な発展に貢献する人材を育てる。

エ 環境マネジメント学科

自然環境に調和した持続可能な社会システムやライフスタイルの構築をめざし、フィールドワーク等の実践を通して新しい価値を創造する。

（教育目標）

- ・ 大気や水、生物等の自然の潜在的資源を、新しい見方で発見・利用し、地域や地球の持続可能なシステムの構築を目指す人材を育てる。
- ・ 環境を中心とした地域や地球の問題を的確に理解し、地域の活性化や発展を伴う持続可能な社会の実現に向けて行動する人材を育てる。

オ 環境デザイン学科

家具から建築、街並み、都市計画まで、環境と調和するデザインを創造することのできる人材を育成する。

(教育目標)

- ・ 環境に優しい生活の在り方を総合的に探求する。
- ・ 環境デザインの演習・講義・実験を通じて「安全・健康・快適で耐久性のある美しい生活空間」を実現するためのデザインと技術を学ぶ。
- ・ 地球の環境について視野を広げ、自然と人間の未来を豊かな目で見つめ、将来の生活環境に貢献できる人材を育成する。

カ 建築・環境デザイン学科

建築設計から家具デザイン、インテリア、古民家再生、ランドスケープまで「安全・健康・快適で持続性のある美しいデザイン」のあり方を探求する。

(教育目標)

- ・ 建築・インテリアから都市・ランドスケープまで、人間の環境にふさわしいデザインを総合的に探求する。
- ・ 「安全、健康、快適な建築」の空間を実現する設計技術の基礎を修得。
- ・ 生活環境の歴史を学び、保存・修復・再生や企画・維持・管理の価値を理解して、現代のさまざまな環境問題に対応できるような知識と技術を学ぶ。
- ・ 演習、実験、プロジェクト研究など、実践を重視したカリキュラムと、少人数の講義やグループ指導など、密度の高い教育を通じて、将来の地域社会や国際社会に貢献できる人材を育てる。

キ 情報システム学科

省資源、省エネルギー社会の実現をめざしハードウェアやソフトウェア、ネットワークに関する豊かな知識とスキルを修得する。

(教育目標)

- ・ コンピュータ関連技術を基礎から高度な応用まで幅広く学ぶことにより、社会のニーズに対応でき、循環型社会システムに貢献する幅広い知識と高度な情報通信技術を身に付ける。
- ・ 社会の一員として活躍するために必要となる、自らの頭で考える力、自らの意思で行動する力、他人とのコミュニケーションを行う力、自己を表現する力を養う。

ク 人間形成教育センター

幅広い教養教育・基礎教育である「人間形成科目」を開講して、専門教育への橋渡しを行う。

(人間形成科目とは)

世界で通用するコミュニケーション能力を効果的に身につける「外国語科目」、コンピュータの基礎から応用までを体系的に学ぶ「情報処理科目」、豊かな人間性を育むために幅広く学問の基礎を学ぶ「総合教育科目」、これら三つの科目群で構成され、知識の習得に留まることなく、多角的な視野を育てる。

(特色ある外国語教育)

- ・ 実践的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする「インテンシブ・イングリッシュ（1～8）」を開講。

(主な特徴)

- ・ 1年次には全学科必修、1回90分・週3回の集中プログラム。
- ・ 文法・語彙・リーディング、作文・発表、理論的思考と議論の3領域について基礎的項目を修得。
- ・ 講義は原則として英語で行われ、リスニングの技能は全てのコースで養成される。
- ・ 海外英語実習
本学が交流協定を締結している、ユニテック工科大学（ニュージーランド）での海外英語実習を開学以来毎年実施している。平成23年度は7名が参加した。
- ・ 英語以外の外国語科目は、中国語・韓国語の2言語に関する授業科目を開講した。

ケ プロジェクト研究 *3学科共通

社会人となってから役立つ実践的なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、企画・実行力を養うことを目的とする「プロジェクト研究（1～7）」を開講した。

(主な特徴)

- ・ 1年次と2年次前期（プロジェクト研究1～3）には、学科の枠を超えた学生3～4名でチームを編成して、環境問題や企業・地域社会が抱える問題等を題材としてグループ研究を行う中で、情報収集・調査分析方法、討論の仕方、レポートのまとめ方、プレゼンテーション技法等、大学での勉学に必要な基本的姿勢・スキルを身につけ、2年次後期から4年次（同4～7）には学科別にチームを構成し、それまで培ってきた知識・経験を活かして、専門的かつ実践的な研究活動を行う。

コ 大学院修了生（平成23年3月31日時点）

環境情報学研究科	人数
社会環境学領域	3名
環境デザイン領域	2名
情報システム領域	2名
合計	7名

* 大学院第5期修了生

(環境情報学研究科の特徴)

- ・ 1専攻「環境情報学専攻」3領域「社会環境学領域」「環境デザイン領域」「情報システム領域」で構成し、各分野の先端的な学術研究を推進し、「環境学」の高度な専門性と幅広い視野・見識を持つ人材を育成し、大学院修了生7名を輩出し、現在8名在籍している。

サ 研究計画

- ・ 学内研究費による研究
専任教員の個人研究費による個人又は共同研究を実施した。
- ・ 学外研究費による研究

[受託研究・受託事業(6件 5,719千円)]

タイトル	企業名等	金額 (千円)
里地里山再生計画策定業務	鳥取県	857
水力・森林などの集落資源活用による鳥取市における中山間地域振興の基本戦略の検討	鳥取市	447
エタノール精算による放射能汚染土壌の修復	(公財)谷川熱技術振興基金	1,000
伝統的構造要素としての土塗り壁の実大実験	NPO 法人緑の列島ネットワーク	500
東本願寺阿弥陀堂の土壁郷土の調査・解析	学校法人立命館	1,235
勝福寺本堂の耐震補強方法に関する実験的研究	学校法人立命館	1,680

[共同研究(2件 1,600千円)]

タイトル	企業名等	金額 (千円)
システム開発に係る共同研究	(株)LASSIC	1,200
リスク認知に関する調査研究	(独)日本原子力研究開発機構	400

[公募採択型研究(2件 38,988千円)]

タイトル	企業名等	金額 (千円)
日本からアジアに展開する廃棄物系バイオマス利活用による3R定着に関する研究	環境省循環型社会形成推進科学研究費補助金	19,095
日本海に面した海岸における海ゴミの発生抑制と回収処理の促進に関する研究	環境省循環型社会形成推進科 研費補助金	19,893

[鳥取県環境学術研究費補助金（12テーマ採択、補助金額13,680千円）]

研究課題	研究代表者	金額（千円）
摩尼寺「奥の院」遺跡の環境考古学的研究	浅川教授	2,250
フードマイレージを用いた食材の消費行動推進に関する研究	岡崎教授	1,583
山陰海岸ジオパークのマネジメントプランの策定	中橋教授	1,025
智頭町芦津におけるニホンモモンガを中心とした小型ほ乳類の生態調査およびそれに基づいた森林計画と地域振興に関する提案	小林教授	978
鳥取県の発電用風車騒音に関する調査研究	十倉教授	895
「里山集落」における小規模有機農業コミュニティ形成の可能性に関する実践的研究	東樋口教授	750
鳥取県における環境情報の計測拠点の整備と閲覧システムの構築	今井教授	1,500
スマートグリッドの前提となる複数の風力発電設備及び太陽光発電装置の連携運用に関する実用化研究	鷲見教授	1,400
スギ(スギパーク)からのバイオエタノール生産に適した生物化学前処理技術の開発	佐藤講師	1,066
鳥取県における小水力エネルギーの利用拡大とプラットフォームの形成	三野教授	840
農村景観の点景としての水車の復活に関する研究	荒田准教授	737
鳥取県内森林に適合した炭素吸収量の評価手法の開発	藤沼教授	656

[科学研究費補助金（研究代表者5件、研究分担者5件、補助総額8,954千円（内訳：直接経費6,888千円、間接経費2,066千円）]

研究代表者 5件

研究課題	研究代表者	金額（千円）
伝統大工技術により補修された木造軸組架構の性能評価実験	中治准教授	2,340
次世代の衛星搭載複合型マルチパラメータ降水観測システムの開発に関する研究	岡本教授	1,300
石窟寺院への憧憬 ―岩窟／絶壁型仏堂の類型と源流に関する比較研究―	浅川教授	1,300
マラッカ・ジョージタウン世界遺産のボトムアップ保存手法構築のための調査研究	張准教授	1,690
グラフ同型性判定問題の計算量の解析および効率的なアルゴリズムの提案	名古屋講師	780

研究分担者 5件

タイトル	研究分担者	金額（千円）
伝統木造建築物の構造ディテールに基づく設計法の構築に関する研究	中治准教授	780
視線を用いた家電製品のコントロールシステムの構築	鷲見教授	364
空間と形に感応する媒体として身体を解明するところから、知の成立機序を捉え直す試み	加藤客員教授	400
共感から良心に亘る「共通感覚」の存立機序の解明、並びにその発現様式についての研究	〃	910
世界における終末期の意思決定に関する原理・法・文献の批判的研究とガイドライン作成	〃	260

シ 研究者及び研究成果の公開

大学シーズ(研究者情報)等の公開を行い、産学官連携並びに地域連携活動の推進を図る。

- ・ 『研究者一覧・研究テーマ集2011』の発行・・・1,500

(3) 学生生活

ア 平成23年度学生状況

[学部]

(2011年4月1日現在 単位：人 休学者は内数)

学 科 名	入学定員	11年度生			10年度生			09年度生			08年度生			07年度生以前		合 計	
		入 学	在 籍	休 学	入 学	在 籍	休 学	入 学	在 籍	休 学	入 学	在 籍	休 学	在 籍	休 学	在 籍	休 学
【2008年度以前】																	
環境政策学科	166	-	-	-	-	-	-	-	-	-	96	89	2	22	5	111	7
環境デザイン学科	79	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	14	0	7	4	21	4
情報システム学科	79	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	19	0	13	4	32	4
小 計	324	-	-	-	-	-	-	-	-	-	142	122	2	42	13	164	15
【2009年度】																	
環境政策経営学科	99	79	79	0	41	40	1	50	48	2	0	1	0	-	-	168	3
環境マネジメント学科	99	75	75	0	71	70	4	54	472	2	-	-	-	-	-	196	6
建築・環境デザイン学科	39	21	21	0	14	13	0	24	20	0	-	-	-	-	-	54	0
情報システム学科	39	48	48	0	23	21	0	25	25	0	-	-	-	-	-	94	0
小 計	276	223	223	0	149	144	5	153	140	4	0	1	0	-	-	508	9
総 計	-	223	223	0	149	144	5	153	140	4	142	123	2	42	13	672	24

※入学定員には編入定員を含まない。

[大学院]

(2011年4月1日現在 単位：人 休学者は内数)

領 域 名	入学定員	11年度生			10年度生			09年度生以前		合 計	
		入 学	在 籍	休 学	入 学	在 籍	休 学	在 籍	休 学	在 籍	休 学
社会環境学領域	10	1	1	0	5	4	0	0	0	5	0
環境デザイン領域	5	0	0	0	5	5	1	0	0	5	1
情報システム領域	5	2	2	0	3	3	1	0	0	5	1
合 計	20	3	3	0	13	12	2	0	0	15	2

イ 授業日程等 (学部)

4 / 4	入学式
5、6、7	前期履修ガイダンス (在校生向け)
6、7、8	フレッシュヤーズ (新入生) セミナー
1 1	前期授業開始
8 / 5	前期授業・定期試験終了
9 / 2 6	後期履修ガイダンス
9 / 2 7	後期授業開始
H24. 2 / 6	後期授業・定期試験終了
3 / 2 1	学位授与式

ウ 科目等履修生及び聴講生の受入

一般の方に修学の間を提供し、環境問題や本学に対する理解を促進。社会人がより受講しやすい環境に係る履修コースの設定等を行った。

前期：聴講生 3名（うち新規1名、継続2名）

後期：聴講生 2名（うち新規1名、継続1名）

エ 教育懇談会及び進路相談会の開催

学業成績、学生生活並びに就職活動の状況について保護者と教職員が懇談し、学生生活の充実や卒業後の進路選択について相談する。原則チューター教員が面談を対応するため、今年度は本学のみ開催した。

11/12・13 開催 参加保護者数110名（うち個別面談数83名）

オ 聴覚障害者に対する学習支援

要約筆記サービスの提供等により、聴覚或いは手指機能等に障害のある学生の受講を支援した。

サポートをする学生 6名

サポートを受ける学生 2名

カ BDFスクールバス

平成19年度より開始しているバイオディーゼルを燃料としたスクールバスを平成23年度も以下の通り運行した。

今後も学生・教職員の交通手段の確保及びマイカー通学・通勤からの乗り換え並びにバイオディーゼル100%の燃料を使用することによるCO2の排出削減に努める。

運行期間：4月～平成24年2月（土・日・祝日、長期休暇時は運休）

運行区間：本学～JR津ノ井駅～JR鳥取駅 往復

運行便数：1日7便（第1便上り及び第6便下りのみ2台で運行）

乗降者数（延べ人数）：40,914人

1日平均乗降者数：240人

1便平均乗降者数：34人

キ 奨学金、授業料減免

成績が優秀であるにもかかわらず経済的な理由で修学が困難な学生を対象に、奨学金制度及び授業料減免制度に基づき奨学金を支給もしくは貸与及び授業料減免等の措置を講じた。

[授業料等減免]

県内出身の学部生については、その世帯の総所得額が県立高校の授業料減免基準に準じた所得基準に達しない場合、年度ごとに、授業料、実験実習費及び施設費（以下「授業料等」）の半額を免除する。

県外出身者の学部生については、学期ごとに各学年3～4名程度に対し、授業料等の半額を免除。大学院生については、学期ごとに3名程度に対し、授業料の半額を免除する。

(半額免除)

鳥取県出身学部生 減免対象者数 (年度ごとに授業料減免)

対象	免除額/年	1年次	2年次	3年次	4年次	再入学	合計/人
環境政策学科	50万円				18	1	19
環境政策経営学科	50万円	18	8	9			35
環境マネジメント学科	50万円	3	7	4			14
環境デザイン学科	65万円				2		2
建築・環境デザイン学科	65万円		3	4			7
情報システム学科	65万円	10	5	11	1		27
合計		31	23	28	21	1	104

- ・授業料等減免承認者への減免額 鳥取県内出身学部生 合計**57,400千円**
- ・県内出身新入生のうち31.9% (97名中31名) が減免対象となっており、昨年度に比べ減少しているものの本学受験へ一定の効果があったと思われる。

県外出身学部生・大学院生 減免対象者数 (半期ごとに授業料減免)

対象	免除金額/期	前期/人	後期/人	合計/人
大学院	25万円	3	4	7
環境政策学科	25万円	4	4	8
環境政策経営学科	25万円	1	2	3
環境マネジメント学科	25万円	4	9	13
環境デザイン/建築・環境デザイン学科	32.5万円	0	0	0
情報システム学科	32.5万円	3	4	7
合計		15	23	38

- ・授業料等減免承認者への減免額

学部合計	8,275千円
大学院合計	1,750千円
院学部計	10,025千円

21年度から、就学支援として「鳥取環境大学奨学金」、「アパート代助成」、「兄弟姉妹施設費免除」を導入した。

(鳥取環境大学奨学金)

- ・成績優秀部門：2年次から4年次までの学生で、前年度の成績が各学科の中で特に優秀で、他の模範と認められる在校生に、支給決定がなされた年度の授業料・実験実習費・施設費の合計額の半額を支給する。
- ・環境活動部門：高等学校在学中に公的に認められた環境活動の実績を有し、入学後も学業並びに環境問題解決に積極的に取り組むことが期待される新入生に、年25万円を原則として在学中4年間支給する。

- 文化・スポーツ活動部門：高等学校在学中に、文化部活動・運動部活動において全国的もしくは都道府県レベルで顕著な実績を有し、入学後も学業並びに課外活動等に積極的に取り組むことが期待される新入生に、年50万円又は25万円を原則として在学中4年間支給する。

<成績優秀部門奨学生>

【学部2～4年次生および大学院生対象】

	給付金額/年	1年	2年	3年	4年	計(人)
環境政策学科/環境政策経営学科	50万円		2	2	2	6
環境マネジメント学科	50万円		2	2		4
環境デザイン学科/建築・環境デザイン学科	65万円			1	1	2
情報システム学科	65万円		1	1	1	3
大学院	50万円	2	3			5
計(人)		2	8	6	4	20

成績優秀部門奨学金支給総額 10,750千円

<環境活動部門奨学生>

	給付金額/年	1年	2年	計
環境政策経営学科	250千円	1	0	1
環境マネジメント学科	250千円	1	7	8
計(人)		2	7	9

環境活動部門奨学金支給額 2,250千円

平成21年度に制度を設けたものの申請者がなく、平成22年度は2名、平成23年度は7名が対象となった。

<文化・スポーツ活動部門奨学生>

	文化活動						スポーツ活動						計
	50万円			25万円			50万円			25万円			
	2年	3年	4年	2年	3年	4年	2年	3年	4年	2年	3年	4年	
環境政策経営学科				1	1	1				6		2	11
環境マネジメント学科						1				1	1		3
建築・環境デザイン学科							1		1	1	1	2	6
情報システム学科						1				1	2		4
計(人)				1	1	3	1		1	9	4	4	24

文化・スポーツ活動部門奨学金支給額 6,500千円

(アパート代助成)

実家を離れ、賃貸借契約によりアパート等に居住する在学生に対し、家賃の20% (月額1万円が上限) を助成する。ただし、1年生で、津ノ井・若葉台地区居住する在学生は、家賃の30% (月額1万5千円が上限) を助成する。(うち、10%は鳥取市補助金)

	申請者数	支給額	うち鳥取市補助金
前期	271人	14,826,800円	2,865,400円
後期	278人	15,137,400円	2,804,400円
延べ数	549人	29,964,200円	5,669,800円

申請があったのは全学の約40%であり、県外出身者及び通学が困難な県西部を含めると約半数の学生がアパート等に入居していると思われるが、申請者は予想を下回った。

(兄弟姉妹施設費免除)

本学の卒業生又は在学生の兄弟姉妹が本学に入学した場合、入学した兄弟姉妹のうち2人目以降の者の施設費を免除する。

申請者数19名 (うち4名は授業料減免を優先適用) 適用者数15名

免除額 4,050千円

[鳥取市鳥取環境大学奨励金、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体等その他の奨学金]

(鳥取市鳥取環境大学入学奨励金)

入学試験出願時に鳥取市に住所を有するか、または鳥取市内の高等学校を卒業した者に対し、鳥取市から入学金(25万円)の半額が交付される。

平成23年度交付実績: 58名

* 大学院への入学に対して奨励金は交付されない

(鳥取市鳥取環境大学就職奨励金)

本学を卒業した翌年度末までに鳥取市内で就業し、かつ、鳥取市に住所を有する卒業生に対し、鳥取市から入学金(25万円)の半額が交付される。

平成21年度交付実績: 22名 (うち院修了2名)

(日本学生支援機構奨学金(貸与型))

対象	人数	採用実績
大学院	8名	53.3% *
学部	306名	46.3% *

* 採用実績は本学学生総数に対する割合。

(地方公共団体等その他の奨学金)

主催団体が個人情報につき公表を控えたため不明

(特待生)

一般入試A方式及びセンター試験利用入試前期の成績優秀者で特待生として選考され入学した者

学 年	環境政策経営 学科	環境マネジメント 学科	建築・環境 デザイン学科	情報システム学 科	合計 (学年ご と)
4年	0名	0名	0名	1名	1名
3年	2名	2名	1名	0名	5名
2年	2名	1名	1名	1名	5名
1年	0名	1名	1名	2名	4名
合計 (学科ごと)	4名	4名	3名	4名	15名

* 優遇措置として学費を全額免除。

ク 学生生活相談

- ・ 保健室における学生相談 (随時実施)
相談件数：延べ723件/年
- ・ 校医 [メンタルヘルス、スポーツ、一般内科] による健康相談 (毎月実施)
相談件数：延べ 29件/年

相談内容	件数	全体の割合
カウンセリング	422件	58.4%
健診結果通知 (就職活動関連)	62件	8.6%
難病他	23件	3.2%
呼吸器系疾患 (風邪等)	36件	5.0%
その他	180件	24.9%
合 計	723件	—

ケ 学生フォロー制度の実施

新入生を対象に、3学科共通の必修科目の出欠状況をチェックし、欠席回数が多い学生についてチュータ (各学科の担任教員) もしくは職員が面談を通じて欠席原因を把握し、問題点を早期に解決して有意義な学生生活を送れるよう支援することを目的として、平成18年度から実施。問題が解決されない場合には引き続き支援を継続。

この制度によって抽出されなかった学生、或いは、2年生以上であっても、問題を抱えた学生については、教職員 (保健師を含む) が連携し、必要とあれば保護者も交えて、問題解決を支援。

フォロー対象学生

入学年度	対象学生	うち休学者	うち退学者	入学者
19年度	29人	1人	10人	185人
20年度	22人	2人	9人	141人
21年度	24人	0人	3人	152人
22年度	33人	4人	2人	149人
23年度	51人	0人	5人	223人

コ 大学公認クラブ (部・同好会)

組 織	体育系	文化系	合 計 (組織ごと)	備考
部 活	7	11	18	構成員 10名以上
同好会	14	18	32	構成員 5名以上
合 計 (系統ごと)	21	29	50	—

サ 学生表彰

[学生年度表彰]

課外活動、社会活動、大学活性化等、1年間を通じて顕著な成績を残した団体・個人を表彰
表 彰 式：平成24年1月20日

課外活動 体育部門：該当なし

課外活動 文化部門：該当なし

社 会 活 動 部 門：6名と4団体（うち環境分野1名と2団体）

アクティビティ部門：4団体

[卒業生表彰]

4年間の学業成績が各学科トップの者及び課外活動、社会活動、活性化等での功績が顕著な者を表彰

表 彰 式：平成24年3月20日（学位授与式において）

成 績 優 秀 者：各学科1名

課外活動 体育部門：該当なし

課外活動 文化部門：該当なし

社 会 活 動 部 門：3名（うち環境分野1名）

アクティビティ部門：8名（うち環境分野2名）

シ その他学生関連行事・活動状況等

- ・ 鳥取しゃんしゃん祭への参加
8月14日 しゃんしゃん傘踊り（一斉踊り）に踊り子・スタッフ等総勢120名が「鳥取環境大学連」として参加。
- ・ 韓国清州大学との交流
相互に学生を派遣し、それぞれ学生交流を中心としたプログラムを実施。
来日 8月 9日～12日（清州大学生 10名）
訪問 8月23日～26日（本学学生 10名）
- ・ 第11回環謝祭の実施
10月23日～24日 本年度は「夢」をテーマに開催。
「よしもとお笑いライブ」をはじめ、各種模擬店、音楽ライブ、ミニ地球を作って生態系について学ぼう等で2日間盛り上がりを見せた。
- ・ 第8回環大コンペ表彰式（鳥取環境大学を支援する会からの支援事業）
大学生生活向上或いは地域社会に貢献する優れた企画を実施する団体個人に賞金授与。
1位：「就活生のための就活報告会」 就活エンジョ委員会
2位：「楠城集落の農産物販売ルートの確保とグリーンツーリズム」
楠城活性化プロジェクト有志
3位：「震災ボランティア報告会」 OCA
- ・ 鳥取市主催「鳥取砂丘一斉清掃」に参加
4月17日 学生60名、職員2名

(4) 大学広報

【 大学広報 】

ア 第8回環境論文募集と発表会の実施

地球環境問題について高校生の意識を高めることを目的として、今年度も継続して第8回環境論文の募集を行った。今回のテーマは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で大きな環境被害に襲われ、高校生がこの問題をどのように受け止め、考えていくのかを問うことを目的として、「環境問題 - 安全な暮らしを求めて - 」とした。全国約4,800の高等学校に対して募集要項を送付するとともに大学のホームページで募集を行い、1,085件の応募があった。その後学内及び学外審査委員による厳正な審査を行い受賞者を決定し、10月8日に受賞作品の発表会及び表彰式を開催した。

応募は、全国32都道府県55校から1085作品あり、都道府県数は過去最高、応募件数は平成22年度に比べ都道府県数は319件増加した。高校内で一次審査を実施しているという高校があるという情報もあるが、来年度は、応募総数を増加させるため、新聞広告の活用、高校訪問時の案内等広報に注力する。また発表会の参加者も学生を含め教員の参加を促すよう、平成23年度に向け運営についての検討を行う。

【 応募数の推移 】

区 分	第1回 (H16)	第2回 (H17)	第3回 (H18)	第4回 (H19)	第5回 (H20)	第6回 (H21)	第7回 (H22)	第8回 (H23)
応募総数	554	850	1,088	1,352	1,423	1,492	766	1,085
(県内応募数)	(23)	(4)	(87)	(318)	(453)	(281)	(6)	(4)
応募都道府県	28	25	25	22	22	29	26	32
高校数	48	54	55	45	39	55	48	55

【 表彰者 】

(個人の部)

賞名	論文タイトル	氏名	高校名	学年
環境大賞	地域未利用資源の有効活用～オカラと使用済み割り箸の堆肥化がもたらす地球環境負荷の軽減～	内田 友理	群馬県立大泉高等学校	3
鳥取県知事賞	ヒマワリプロジェクトー原発事故による放射能汚染土壌の回復に向けてー	園芸科学 研究班	神奈川県立平塚農業 高等学校	—
鳥取市長賞	ゴミ・人・環境	橋田優香理	大阪府立農芸高等学校	1
新日本海新聞社賞	私たちのECO活動	食品加工部	長崎県立島原農業高等学校	—

*上記の他、佳作3件

(団体の部)

賞名	高校名	応募数	所在地
学校賞	北海道滝川高等学校	229	宮崎県
〃	神戸学院大学附属高等学校	189	兵庫県
〃	都城工業高等専門学校	162	島根県

イ マスコミへの資料提供

本学関連イベントや、教員の研究活動、学生の活動等について47件の情報を各マスコミに提供し、その内容が新聞やテレビなどに26件取り上げられた。(採用率55.3%)

今後も引き続き情報提供をタイムリーに積極的に行っていく。

ウ パンフレット類の作成

公立化を控え、今年度は受験生向けの大学案内を大幅に増刷(20,000部から40,000部)し、全国の高校、予備校等に郵送するとともに、資料請求者、オープンキャンパス来場者、進学相談会、高校内ガイダンス、高校訪問等で積極的に配布を行った。

保護者を対象とした学報「若葉台レポート」を2回発行し、特集として、公立大学化と新学部設置に焦点を当てた記事を掲載し、配布した。

大学総合案内では、公立化に関する内容も掲載し、求人票の依頼時に企業向けに送付した。

なお、新生公立鳥取環境大学設立協議会が作成した公立化に向けたのリーフレット等を、さまざまな場所・機会を通して配布し、公立化・新学部設置を含めた魅力ある鳥取環境大学の誕生に関する情報発信を実施した。

エ 資料請求者へのメールマガジン配信及び大学案内などの送付

資料請求者に対し、入試情報をはじめオープンキャンパス・進学相談会などのイベント情報、大学の近況を月1回メールマガジンで配信した。また、大学案内や募集要項の、特に公立化や新学部情報などは完成次第発送し、迅速な情報発信を実施した。

オ 広報媒体による広報活動

受験情報業者との契約により、各種受験情報誌、受験情報サイトを活用し、「公立大学化」、「学部新設」を中心に広報を展開した。さらに、日本海新聞や山陰中央新報の地元紙及び朝日新聞(西日本全域)に全面広告を掲載し「公立化」「新学部新設」を大々的にアピールした。

公立大学化の効果もあり、資料請求数は実数8,487件(対前年比201.4%)と大幅に増加した。

今後も、エリアや内容を絞り込み、公立化と新学部を中心に置いた情報発信を実施していく。

カ ホームページの改修

公立大学法人化、環境学部、経営学部の新設に伴い、大学ホームページの全面リニューアルを行った。リニューアルサイトにあたっては、ユーザーが本学の情報を容易に入手できることを主眼におき、大学の各種情報、教育・研究、地域貢献活動などの情報を、見やすく、分かりやすく、整理し、タイムリーに発信することができるサイト構成とした。

なお、公立大学法人としての大学運営の透明性の確保を前提に、各種情報の公開度を高め、積極的に情報を提供・公開していくとともに、次年度以降、当ホームページを有効に活用し、大学の魅力の情報発信に努める。

キ オープンキャンパスの実施

6月、8月（2日間）、10月の4日間開催した。各回毎にテーマを決め、受験生に合わせたイベント内容を企画・実施した。受験対象者へのDMや高校訪問等で公立化を積極的にアピールすることで、今年度の来場者総数は1,406名（対前年比192.9%）となり、そのうち受験対象者は775名（対前年比274.8%）と大幅に増加した。アンケート結果により来場者の満足度も高かった。

ク 高校訪問の実施

対前年比126.6%の延べ1,375校を訪問した。鳥取県内は高校訪問参与を中心に、ほぼ毎月訪問したが、特に年度当初や、公立化が明確になった時は学長が訪問した。県内以外の島根県、兵庫北部、岡山北部については高校訪問参与が2～3か月に1回、中四国、関西、福岡には職員が訪問した。効果を高めるため、進学区分別に訪問高校を選定、時期もオープンキャンパス、入試等の時期を考慮して年3回（6月、9月、12月）実施した。特に公立化の周知を重点的に行い、訪問後には学内で報告会を開催し、志願の可能性認知度を確認し、その後の訪問に役立てた。結果的に1校当たりの志願者について、訪問高校は未訪問高校に比べ約2倍の志願者数であり、効果が証明された。

次年度以降は、今年度の志願状況を分析し、範囲と高校を選定し、より効果的な訪問を実施していく。

ケ 高校教員説明会の実施

公立大学化、新学部、入試制度等の情報を効率的かつ効果的に高校教員に伝えるため、高校教員対象説明会を2回開催した。5月から6月にかけては7会場（本学、米子、松江、浜田、岡山、倉敷、姫路）、10月にはさらにエリアを拡大し、10会場（本学、米子、松江、出雲、大阪、神戸、姫路、岡山、福山、福岡）で開催した。1回目は98校、2回目が89校の参加があり、本学への関心が伺われた。参加高校からの志願者も多かった。

コ 高校内ガイダンスへの参加

高校内ガイダンスは直接高校生と接触できる機会、本学のことを詳しく伝えられるため、昨年度に引き続き積極的に展開した。

高校数 延べ 37校 (昨年度比△6校)

受講数 延べ387人 (昨年度比△44人)

今年度は公立化、新学部を中心に説明したが、今後は、公立化による受験者層の変化を考慮して参加高校を選別していくと同時に、志願者増につなげられるような説明内容に改善していく。

サ 進学相談会への参加

本学主催の相談会も含め、受験関連業者が西日本中心に開催する進学相談会に参加し、本学に興味を持つ来場者(高校生、高校教員、保護者)に本学の魅力、特に公立化と新学部についてアピールした。また、公立化をより周知させるために9月に参加会場を増やし、オープンキャンパスの告知を行った。その結果、大幅に来場者数が増加した。

参加会場数 40会場 (対前年度+10会場)

訪問者 318人 (対前年度比314%)

シ 出前授業・遠隔授業の提供

年間27回(約4,000名)の出前授業を県内外の高校に提供した。内容は経営、環境、情報、まちづくりまで幅広い分野の授業を広範囲の高校で実施した。

鳥取県内8校

県外19校(大阪府、兵庫県、島根県、岡山県、広島県、徳島県)

ス 見学者への対応

今年度は56件(約1,300人)の来学者対応を行った。小学生、高校生、個人、一般と来学者は多岐にわたるが、目的や要望を充分確認してメニューを組み立て、満足度の高い対応を行った。また今年度は公立化によって本学を志望校として検討している教員や生徒個人の見学が非常に増加した。

小学校2件

高校関連17件

一般3件

本学への受験を検討している生徒または教員34件

(5) 入学試験

ア 学部入試

[全体の傾向]

公立大学1期生の入試でありながら、他の国公立大学と自由に併願できる私立大学方式で実施するという特殊な状況であったため、志願者数は大幅に増加した（国公立大学は基本的に前期・後期の2大学しか出願できない）。また、志願者の出身地も全国に拡大し、結果的に全体に占める県内出身者の割合は大きく減少した。また、女子の志願者も大幅に増加し、入学者全体の3分の1を女子が占めるという結果となった。

また、これまでほとんどなかった私費外国人留学生入試の出願が11名となったことも、公立化の効果と思われる。

区分	学科	募集 定員	志願者			合格者			入学者		
			本年度	前年度	対前年 比	本年度	前年度	対前年 比	本年度	前年度	対前年 比
学部 1年次	環 境	138	1,733	460	6.0倍	320	372	1.7倍	149	223	1.3倍
	経 営	138	1,020			294			147		
	計	276	2,753			614			296		
3年次 編入学 (1・2 期)	環境政策経営	1	1	1	1.0倍	0	0	—	—	—	—
	環境マネジメ ント	1	3	0	—	2	—	—	1	—	—
	建築・環境デ ザイン	1	1	1	1.0倍	1	1	1.0倍	1	1	1.0倍
	情報システム	1	0	0	—	—	—	—	—	—	—
	計	4	5	2	2.5倍	3	1	3.0倍	2	1	2.0倍

※追加合格者環境学部7名、経営学部5名は上記の合格者には含めない。

[志願者]

(学部別志願者)

学部改編により環境学部、経営学部の2学部で志願者を募集したが、いずれの学部も定員の7倍～1.2倍を超える状況であった（上表）。

(鳥取県内志願者)

県内志願者は340名で昨年より153名増加した。東部地域の志願者が最も増加したが、対前年比では中部地域も同様の増加となっている。

(鳥取県外志願者)

県外志願者は2,386名で昨年より大幅に増加した(2,128名の増)。特に中国地方の志願者が多いが、対前年比では九州、中部東日本地区等の増加が著しい。公立化により、遠方でも志願の対象となることを物語っている。都道府県別志願者数では、兵庫県304名、岡山県286名、広島県275名等比較的人口規模の大きな県からの志願者が目立っている。

区分	地域	志願者			入学者		
		本年度	前年度	増減比率	本年度	前年度	増減比率
県内	東部	213	111	+91.9%	37	63	△41.3%
	中部	63	33	+90.9%	16	14	+14.3%
	西部	64	43	+48.9%	17	20	△15.0%
	計	340	187	+81.8%	70	97	△27.8%
県外		2386	258	+824.8%	223	119	+87.4%

※高卒認定試験合格者および外国人留学生を除く。

(入試区分別志願者)

指定校推薦入試以外のすべての入試区分で志願者が大幅に増加した。他の国公立大学との併願が自由になることから、一般公募制推薦入試及び一般入試の増加が目立っている。

入試区分	AO入試	指定校推薦	公募推薦	一般入試	センター利用	留学生
志願者数	106名	30名	396名	1441名	769名	11名
前年志願者	28名	37名	39名	168名	187名	1名
増減	+78名	△7名	+357名	+1273名	+582名	+10名
対前年比	3.79倍	0.81倍	10.15倍	8.58倍	4.11倍	11.0倍

[入学者]

(学部別入学者)

環境学部、経営学部とも定員充足率107%となった。国公立大学を併願している合格者が多いと思われ、歩留まりが予測できない状況であったが、最終的に追加合格者12名を出し定員確保を図った。

(鳥取県内入学者)

県内入学者は昨年より27名減となった。

(鳥取県外入学者)

県外からの入学者は大幅な増加となった(104名の増)。都道府県別では、兵庫県34名、岡山県31名、鳥根県・広島県がそれぞれ23名となっている。

イ 大学院入学試験の実施

[入試結果]

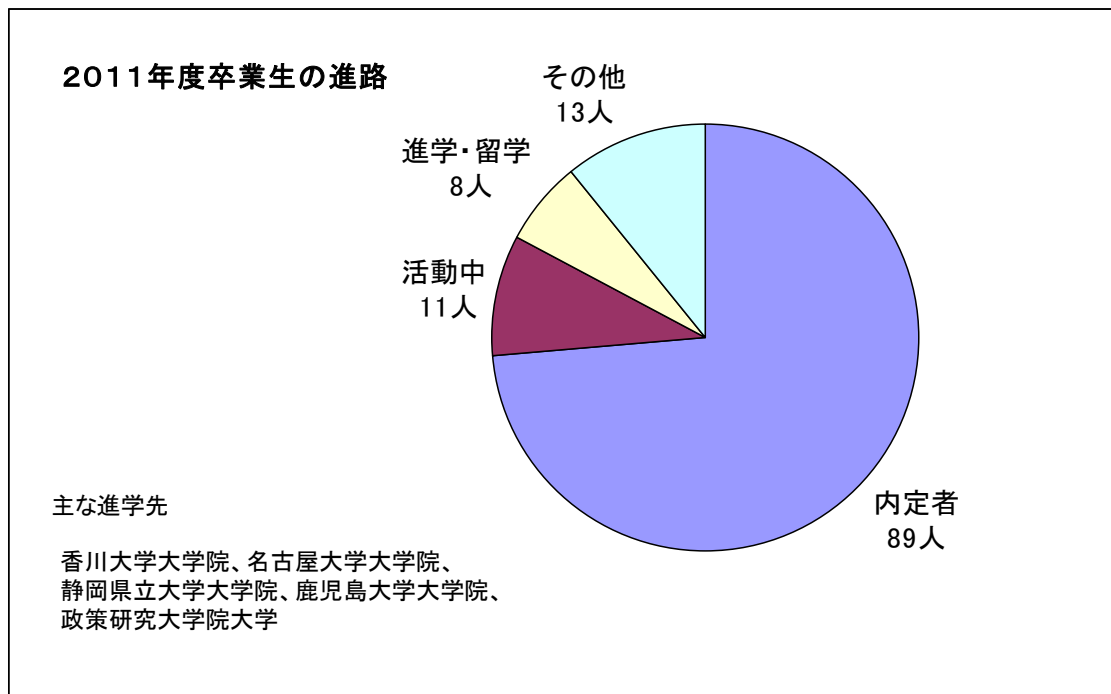
志願者は昨年より1名減少した。志願者4名のうち情報システム1名は本学卒業の社会人であった。合格者のうち1名は他大学大学院に入学した。

区分	領域	募集 定員	志願者			合格者			入学者		
			本年度	前年度	増減 比率	本年度	前年度	増減 比率	本年度	前年度	増減 比率
環境	社会環境学領域	10	2	2	—	2	1	+100.0%	1	1	—
情報	環境デザイン領域	5	1	1	—	1	1	—	1	0	—
学研	情報システム領域	5	1	2	△50.0%	1	2	△50.0%	1	2	△50.0%
究科	計	20	4	5	△20.0%	4	4	—	3	3	—

(6) 就職等進路支援

就職結果

[進路分布]



[学科・領域別就職内定結果]

1. 学部学科別内定状況

	環境政策学科			環境デザイン学科			情報システム学科			全学		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
卒業生(A)	63	21	84	12	4	16	20	1	21	95	26	121
就職希望者(B)	52	19	71	9	2	11	17	1	18	78	22	100
進学・留学希望者	5	1	6	2	0	2			0	7	1	8
その他	6	1	7	1	2	3	3		3	10	3	13
内定者(C)	47	18	65	8	2	10	13	1	14	68	21	89
内定率(C/B)	90.4%	94.7%	91.5%	88.9%	100.0%	90.9%	76.5%	100.0%	77.8%	87.2%	95.5%	89.0%
就職率(C/A)	74.6%	85.7%	77.4%	66.7%	50.0%	62.5%	65.0%	100.0%	66.7%	71.6%	80.8%	73.6%

2. 大学院領域別内定状況

	社会環境学領域			環境デザイン領域			情報システム領域			院合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
修了生(A)	3	0	3	2	0	2	2	0	2	7	0	7
就職希望者(B)	2	0	2	2	0	2	2	0	2	6	0	6
進学・その他	1		1			0			0	1	0	1
内定者(C)	2		2	2		2	1		1	5	0	5
内定率(C/B)	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	83.3%	0.0%	83.3%
就職率(C/A)	66.7%	0.0%	66.7%	100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	71.4%	0.0%	71.4%

[主な内定先]

(学部)

業種	県外企業
農業・林業	しんや農園
建設業	板垣建設、明石緑化
設計事務所	空間文化開発機構
製造業	フジクリーン工業、石丸製麺、武蔵野、弘電社、大東金属
情報通信業	エネルギー・コミュニケーションズ、マツケイ、出雲ケーブルビジョン、ユニバーサルコンピューター
運輸業	
卸売・小売業	エレマテック、天満屋ハイパーマート、大和、島村楽器、万代、イービーシーマート、琉球光和、リック、トーホー、ロック・フィールド、ミスターマックス
金融・保険業	
不動産業・物品賃貸	コーペービィー、ダイワサービス、共立メンテナンス
飲食店・宿泊業	
医療・福祉	わらしべ会
教育・学習支援業	スマーケルネットワーク
複合サービス業	上伊那農業協同組合
サービス業	パルモニー、アサンテ、エムシーエム、夢真ホールディングス、瀬戸内市体育協会、萩原総業
公務	防衛省

業種	県内企業
農業・林業	
建設業	栗山組、懸樋工務店、技工社
設計事務所	
製造業	寿スピリッツ、鳥取ビフラコースティック、清水、聖和精機、大山ハム、
情報通信業	
運輸業	日本交通、流通
卸売・小売業	スズキ自販鳥取(2)、丸合、イーアンドエフ、エスマート(3)、サンマート、日産プリンス鳥取販売
金融・保険業	大山日ノ丸証券、鳥取信用金庫、倉吉信用金庫(3)
不動産業・物品賃貸	伊谷商店
飲食店・宿泊業	鳥取県農協共済福祉事業団
医療・福祉	敬仁会、いたくら
教育・学習支援業	鳥取環境大学
複合サービス業	鳥取いなば農業協同組合(4)、鳥取西部農業協同組合(2)
サービス業	ツーウェイシステム、セツ
公務	鳥取県、鳥取市(2)、倉吉市

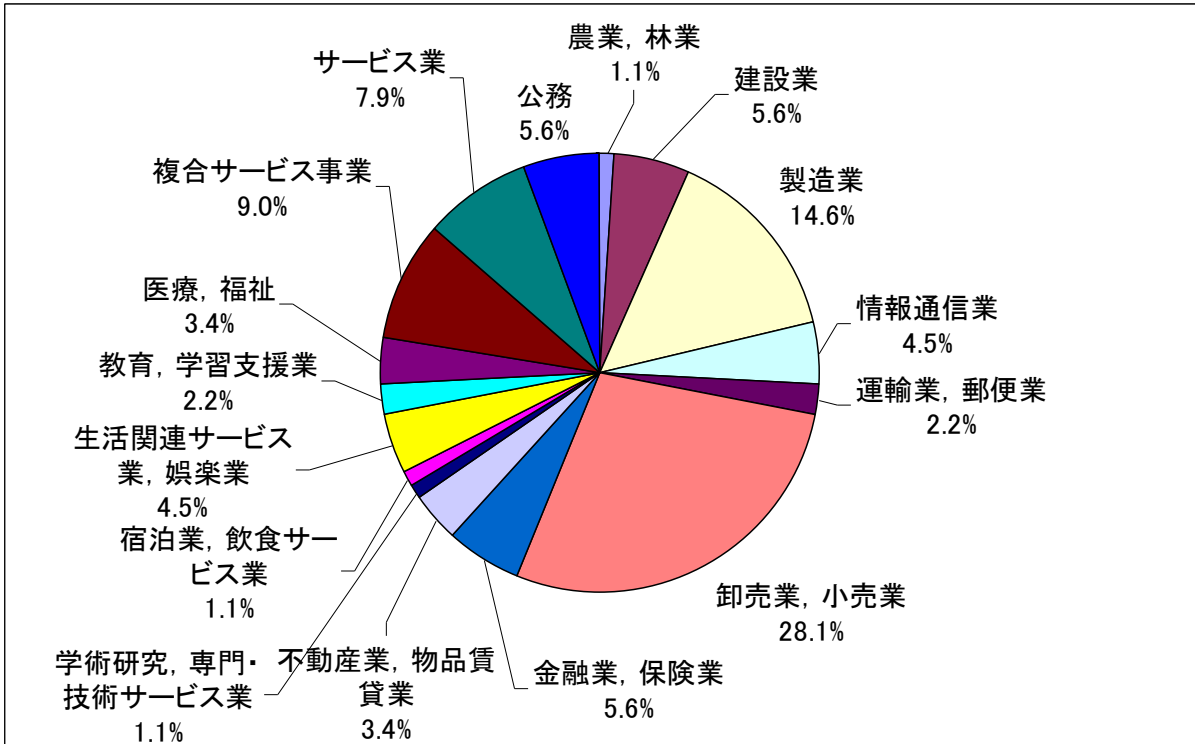
(大学院)

かんぼ生命保険、LASSIC、アーキテック、防衛省、鳥取市

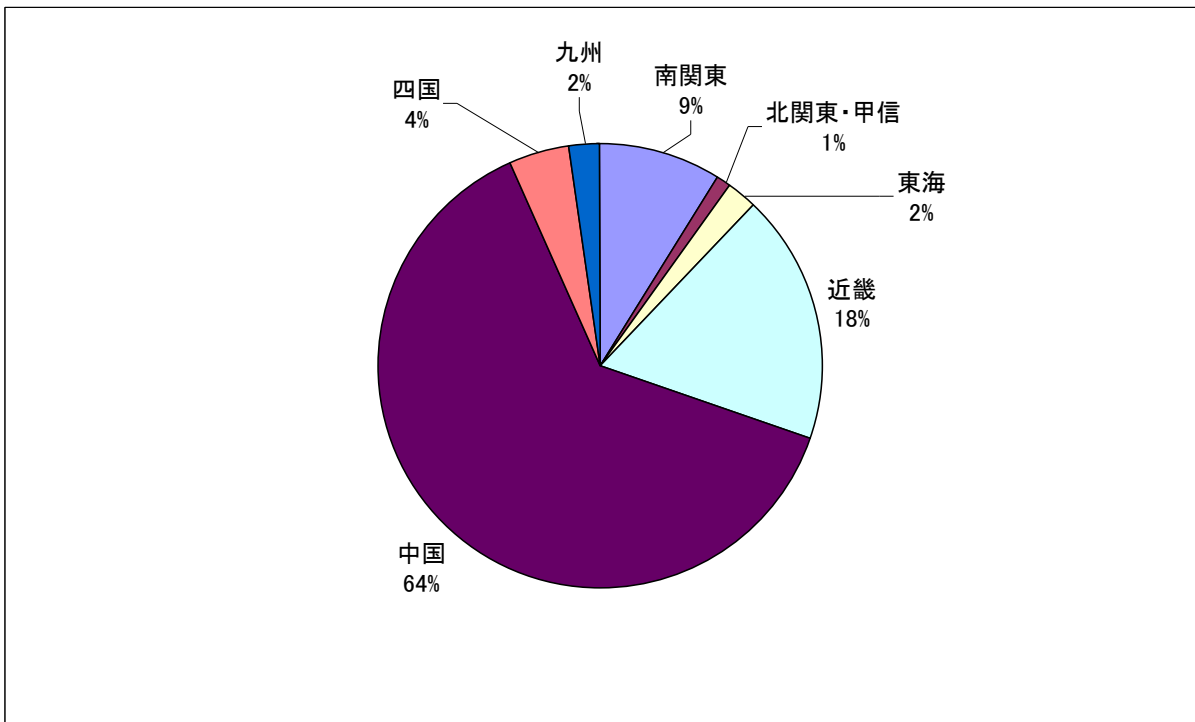
[鳥取県内出身者の県内就職状況]

区分	H17.3月卒業 1期生	H18.3月卒業 2期生	H19.3月卒業 3期生	H20.3月卒業 4期生	H21.3月卒業 5期生	H22.3月卒業 6期生	H23.3月卒業 7期生	H24.3月卒業 8期生
県内出身者⇒県内就職	103	69	73	58	36	44	31	46
県外出身者⇒県内就職	15	15	13	6	7	4	8	0
内定者数 小計	118	84	86	64	43	48	39	46
県内出身者未内定者数	3	8	9	7	10	21	19	7
小計	121	92	95	71	53	69	58	53
県内出身者⇒県外就職	55	51	55	42	58	37	17	13
県外出身者⇒県外就職	124	110	100	125	70	49	35	30
内定者数 小計	179	161	155	167	128	86	52	43
県外出身者未内定者数	5	10	5	8	16	7	11	4
小計	184	171	160	175	144	93	63	47
就職希望者 合計	305	263	255	246	197	162	121	100
就職内定者 合計	286	245	241	231	171	134	91	89
就職内定率	93.8%	93.2%	94.5%	93.9%	86.8%	82.7%	75.2%	89.0%

[就職先業種別グラフ]



[就職先地域別グラフ]



[進路支援スケジュール]

対象	タイトル	年月日	曜日	時間	場所	内容
2 0 1 1	進路ガイダンス	4月5日	火	13:00~14:30		○7期生の進路について 就職活動に向けて
	就職ガイダンス3年一①	5月12日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○新聞の読み方
	就職ガイダンス3年一②	5月19日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○インターンシップの意義、企業の探し方 ○進路予備登録票について
	就職ガイダンス3年一③	5月26日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○就職ガイドブックの活用について
	就職ガイダンス3年一④	6月2日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○毎日コミュニケーションズによる就活セミナー
	就職ガイダンス3年一⑤	6月9日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○リクルートによる就活セミナー
	就職実践講座 I	6月16日	木	14:40~17:50	多目的ホール	○自己分析、自己PR [外部講師]
	筆記試験対策模試	6月23日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○SPI模擬試験(有料)
	適職診断試験	6月30日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○適職診断試験(R-CAP)受験
	個人面談①	7月~		要予約	就職相談 コーナー	個人面談により、個人の特性や将来の志望などを把握し、就職支援に役立てます。
	就職ガイダンス3年一⑥	7月7日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○公務員試験について(種類、試験概要など)
	インターンシップ事前研修	7月21日	木	14:40~17:50	多目的ホール	○マナー研修 ○インターンシップの手続きについて
	適職診断事後解説会	7月28日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○適職診断試験(R-CAP)の結果を利用した自己発見の方法
	インターンシップ実習	8月~9月			実習先	
	就職ガイダンス3年一⑦	9月29日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○業界・企業研究、企業選びのポイント、職種について
	個人面談②	10月~		要予約	就職相談 コーナー	個人面談により、個人の特性や将来の志望などを把握し、就職支援に役立てます。
	就職ガイダンス3年一⑧	10月6日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○就職情報ナビの登録、活用について ○本年度の動向
	就職ガイダンス3年一⑨	10月13日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○4年生による就活報告会;今年度の就職活動体験を聞き、今後の就職活動に役立てます。【全体報告の後、個別質問会を開催】
	筆記試験対策模試	10月20日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○SPI模擬試験(有料)
	就職実践講座 II	10月27日	木	14:40~17:50	多目的ホール	○履歴書、エントリーシートの書き方 [外部講師]
	面接練習	10月 25日~31日		14:40~17:50 の間適宜	ゼミ室	○第1回 面接練習。 個人面接のほか集団面接・グループディスカッションも実施。
	インターンシップ報告会	10月~11月		学科による	学科による	○インターンシップの実習結果を各自がまとめて報告します。
	業界研究会【2年生参加可能】	11月10日	木	14:40~17:50	多目的ホール	○各界の方をお招きし、業界を取り巻く環境や、業務内容等の説明を受け、理解を深めます。【業界は、別途に掲示します】
業界研究会【2年生参加可能】	11月17日	木	14:40~17:50	多目的ホール	○各界の方をお招きし、業界を取り巻く環境や、業務内容等の説明を受け、理解を深めます。【業界は、別途に掲示します】	
業界研究会【2年生参加可能】	11月24日	木	14:40~17:50	多目的ホール	○各界の方をお招きし、業界を取り巻く環境や、業務内容等の説明を受け、理解を深めます。【業界は、別途に掲示します】	
就職ガイダンス3年一⑩	12月1日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○企業紹介ガイダンス	
筆記試験対策模試解説	12月8日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○SPI模試解説 筆記試験の代表SPI(適性検査)について解説してもらいます。	
就職実践講座 III	12月15日	木	14:40~17:50	多目的ホール	○身だしなみ、マナー研修 [外部講師]	
就職ガイダンス3年一⑪	12月22日	木	14:40~16:10	多目的ホール	○学内手続きについて、就職支援について、履歴書の書き方	
2 0 1 2	就職実践講座IV	1月12日	木	14:40~17:50	多目的ホール	○面接試験対策 [外部講師]
	就職フェア参加バス運行(有料)	2月~4月				関西・中国地区等で開催される就職フェアに貸切バスで参加
	学内合同企業説明会①	2月中旬		13:00~16:00	学生センター	県内外の企業をお招きして合同企業セミナーを開催します。
	学内合同企業説明会②	3月中旬		13:00~16:00	学生センター	県内中心に企業をお招きして合同企業セミナーを開催します。

[進路支援施策]

(就職ガイダンス等の開催)

3年生対象：22回 回数も前年同様ほぼ通年に渡り実施、SPI模試を2回（解説1回）実施し筆記試験対策に力を入れた。全体的なスケジュールは前年同様とし早まる傾向のある採用活動に備えた。

2年生対象：2回 前期：進路ガイダンス 後期：先輩の進路

新入生対象：2回 前期：進路ガイダンス 後期：先輩の進路

4年生向「県内企業紹介ガイダンス」（5/16）

県内の募集中企業を紹介。9名が参加。

3年生向 「4年生による就活報告会Ⅰ」

就活を終えた4年生による進路相談会。本年度は4年生有志による自主運営で実施。

3年生中心に74名が参加。

同 「就活出陣式」及び「企業紹介ガイダンス」（12/1）

企業の採用情報等の発信が解禁になる12/1に「出陣式」を開催。学長による激励の言葉や、ガンバロウ三唱で氣勢を上げた。

引き続き関西・関東の企業のうち学内合同説明会に招聘する企業を中心に約50社を紹介。参加者104名

(民間就職試験対策講座の実施)

昨年に引き続き主に民間企業の筆記試験対策として基礎学力低下を補うための講座を実施。できるだけ多くの学生に受講してもらうため、受講料の一部を大学が負担し学生には10,000円の負担で実施。受講生は昨年と同じ24名。

24年度は、資格取得支援の一環で公務員受検対策講座等と併せて実施。

(学内合同企業説明会の開催)

開催日 H23. 2/7～8

参加企業団体46社 学生参加者延べ117名（2日間計）

本年度も参加を希望する企業が少なく、従来3月に案内していた企業も2月に案内し、1回の開催とし上記の参加企業団体数となった。また1社あたりの訪問学生数は6.3名で、昨年の8.3名を下回る結果となったが、一回あたりの説明時間を長く取る傾向があり、より詳細な説明と訪問学生の見極めに時間を割いたと思われる。

(面接練習の実施)

7/4～7/29 の平日に実施。

個人面接の練習 参加者 3年生 延べ99名

以降は希望者に対し随時実施中。

2/9、10 集団面接の練習 参加者 3年生 16名

(インターンシップの派遣)

派遣時期 : 8月～9月の2週間

派遣先数 : 10企業団体 (6団体)

派遣学生数 : 13名 (17名) * カッコ内は前年

数字的には昨年と同程度。正規科目としてのインターンシップとは別に1～2日程度の短期や卒業年次に採用選考も視野に入れた1～2ヶ月の長期就業体験も検討したい。

(企業懇談会の開催)

東京会場 [10/14]

参加 : 18企業団体 (20企業団体)

大阪会場 [10/28]

参加 : 23企業団体 (昨年実施せず)

* カッコ内は前年

(業界・企業研究)

鳥取県の「産業・企業紹介フェア」 (鳥取県雇用人材総室、鳥取環境大学が主催)

11/24県内有力企業9社(9社)が参加。講義形式で1社30分程度PR。延べ84名(121名)が各社の説明を聞いた。本学の実参加学生数は34名(48名)。

* カッコ内は前年

業界研究会 (本学のみ主催)

11/10、17の2日間で8業種の紹介を実施。企業の情報提供が12/1解禁となり参加に慎重な企業が増えたため、本学職員や県職員等も講師を依頼した。身近な講師もあったためか延べ152名の参加があり、昨年の8社、123名を上回る学生が参加した。

(個別面談)

7月に第一回目を予約制で実施、99名の学生と面談。選考時期の早期化に備え、前年同様早い時期に実施。また、できるだけ多くの学生と面談する為に個別に電話等で勧誘しほぼ全員に対し実施できた。

12月から1月にかけて第二回目を実施、83名と面談。より具体的に応募希望の企業や、業種を確認し以降の指導の参考とした。

(ECO検定)

第8回 7/24 鳥取商工会議所において実施

本学 受験者 20名 合格者 15名 (合格率75.0%)

全国 受験者 21,886名 合格者 14,037名 (合格率64.1%)

第9回 12/18 鳥取商工会議所において実施

本学 受験者 22名 合格者 13名 (合格率59.1%)

全国 受験者 20,766名 合格者 13,821名 (合格率66.6%)

受験者数、合格者数共昨年と変わらず低調に終わった。

24年度以降は環境学部中心に積極的な受検を促すため、教員との連携や資格取得支援制度の一環で対策講座を開講する。

(その他就職・進路支援策)

○就職支援チャーターバスの運行

11/4 マイナビ就職EXPO (大阪) 参加36名

○鳥取一大阪間バスチケットの販売

関西方面の説明会、選考の便宜を図るため、日交バスの鳥取一大阪間回数券を1枚 1,000円で販売。特に最も重要な期間である2月～3月に集中的に販売し12月からのトータルで2270枚を販売した。活動初期に交通費不足で活動が鈍ることの無いよう支援するという意味で昨年同様大きな効果があった。4月以降もチケット購入の希望は多く予算を増額して対応している。

○資格取得支援制度

<利用実績>

資格試験数 33種類 (28種類)

資格支援制度利用状況

利用申請者	交付申請者	主な取得資格
98名 (110名)	49名 (46)	ECO検定 28名 (22名) TOEIC 4名 (3名)

補助額 122,400円 (119,800円)

* カッコ内は前年

制度として定着しており利用の希望は多い。資格や検定の幅も広がり昨年の28種類(一昨年は22種類)から増加した。24年度からはダブルスクール等も含めた本格的な資格取得支援を展開する。

(7) 学外交流

ア 環境教育に関する4大学連携事業

大学学部教育における『環境教育』共通カリキュラム開発のための戦略的大学連携事業を、本学の他人間環境大学、京都学園大学、豊橋技術科学大学で実施した。

この取り組みにおいて、学部・学科の名称に「環境」を含む大学が連携して、これまで各大学で個別に行ってきた環境教育を見直すとともに、特色ある教育内容を共有化し発展させることで、「環境教育」共通カリキュラムの開発を目指す。

本事業は、平成21年度から3ヵ年計画で進められ、2年目になる平成22年度から、共通テキストの作成と、TV会議システムを用いた4大学での授業の相互利用・フィールドワークを実施している。

相互利用科目

<前期>

配信：三野 徹 教授 「自然環境システム」 学外受講者 6名

受信：辻村 茂男准教授（京都学園大学） 「シリーズ特別講義A」 本学受講者 2名

坂本 文夫教授他（京都学園大学） 「バイオサイエンス概論」 本学受講者 4名

吉野 敏行教授（人間環境大学） 「地球環境問題概説」 本学受講者 2名

<後期>

配信：藤沼 康実 教授 「植物と環境」 学外受講者 1名

受信：萩下 太郎准教授（京都学園大学） 「微生物の世界」 本学受講者 1名

菊池 洋教授（豊橋技術科学大学） 「基礎生命科学I」 本学受講者 1名

フィールドワーク実施

テーマ1：節電の夏は琵琶湖でEcolife（京都学園大学）

調査日時：9/1～3

参加学生：人間環境大学 2名、鳥取環境大学 2名、京都学園大学 10名、
豊橋技術科学大学 0名 計 14名

引率教員：人間環境大学 2名、鳥取環境大学 1名、京都学園大学 1名、
豊橋技術科学大学 0名 計 4名

場 所：琵琶湖周辺

調査項目：水質自動センサーやパックテストを用いた水質、透明度、位置情報、泥温の測定及び底泥、ベントスや魚、水草の採集・調査。

テーマ2：暖温帯林および冷温帯林の生態学的特性の把握（京都大学主催）

調査日時：9／5～7

参加学生：人間環境大学 4名、鳥取環境大学 0名、京都学園大学 1名
豊橋技術科学大学 0名 計 5名

引率教員：人間環境大学 1名、鳥取環境大学 0名、京都学園大学 1名、
豊橋技術科学大学 0名 京都大学 3名 計 5名

場 所：京都大学上賀茂試験地、芦生研究林、北白川試験地

調査項目：里域から森林域にわたる近畿圏の多様な自然や森林景観の特性について基礎的知識を得ることを目的として、森林内を歩き、見学する。

テーマ3：海ごみ（鳥取環境大学）

調査日時：9／13～15

参加学生：人間環境大学 13名、鳥取環境大学 4名、京都学園大学 3名、
豊橋技術科学大学 3名 計 23名

引率教員：人間環境大学 3名、鳥取環境大学 1名、京都学園大学 0名、
豊橋技術科学大学 1名 計 5名

場 所：鳥取砂丘近辺

調査項目：海ごみ調査を実施。海ごみ回収 海ごみ分別

テーマ4：和歌山省農薬ミカン園（人間環境大学）

調査日時：11／4～6

参加学生：人間環境大学 4名、鳥取環境大学 0名、京都学園大学 2名、
豊橋技術科学大学 0名 計 6名

引率教員：人間環境大学 2名、鳥取環境大学 0名、京都学園大学 0名、
豊橋技術科学大学 0名 計 2名

場 所：和歌山県海南市下津町大窪のみかん山

調査項目：害虫調査、収量（予測）調査。

イ 高校との交流・連携

- ・ 県立高等学校との交流連携を図るため、教職員の相互派遣による授業を実施。
派遣：5校 実施科目数 7科目
受入：なし

ウ 地域イベント・社会連携・国際交流事業の開催・参画

[公開講座の実施]

地域に開かれた大学の実現を図るため、公開講座を実施した。平成19年度より、県西部でも開講しており、平成23年度においては、県東部、県西部で計18回開催し、各学科の教育内容に関する講座に加え、新たに語学に関する講座を開講した。また、聴覚障害のある受講者への対応として、手話通訳や要約筆記通訳を実施した。

タイトル	開催日	受講者
デジタル化する身近なもの	5/14、5/21	鳥取会場 296名 米子会場 193名 合計 489名
インターネットと身近な環境 IPアドレスの枯渇問題と今後	6/4、6/11	
みんなの街路計画	7/2、7/9	
地震災害と住まいのリスク	9/3、9/10	
英語が使える日本人の育成 その問題点と展望	10/1、10/8	
植物を育てて大気汚染を知る	11/12、11/19	
山腹斜面からの湧水は何故おいしいのか	12/3、12/17	
環境と経済競争力	H24.1/21、1・28	
地域の経営と環境の保全	H24.2/19、2・25	

[国際交流事業]

海外の大学との研究交流

平成23年度は、新たにウラジオストク経済サービス大学（ロシア）、江原道立大学（韓国）と相互交流協定を締結したほか、海外大学との交流（訪問・受入）を積極的に行った。今後も引き続き海外大学との交流を推進していく。

提携状況	国名	大学名	締結・協定日
締結完了	ニュージーランド	ユニテック工科大学	H12. 1
	フランス	バリーベルビル建築大学	H14. 4
	デンマーク	オーフス建築大学	H15. 9
	ロシア	ロシア極東国立総合大学	H15. 9
	韓国	清州大学校	H19. 8
	ロシア	ウラジオストク経済サービス大学	H23. 10
	韓国	江原道立大学	H23. 11
事前協定	中国	吉林大学	H14. 8
	韓国	江原大学校	H14. 8

[その他]

- ・ 江原道立大学総長団受入（6／13）
- ・ バーモント州視察団受入（7／16）
- ・ ウラジオストク経済サービス大学訪問（8／8、10／31）
- ・ 極東連邦大学訪問（8／8、11／1）
- ・ 日韓水産セミナー（韓国江原道）（9／1）
- ・ 北東アジア大学教授協議会（中国吉林大学）（9／2－6）
- ・ ウラジオストク経済サービス大学副学長団受入（9／2）
- ・ 江原道立大学訪問（11／28）

エ 研究交流活動

[出展事業]

県内外展示会へ出展し、本学の研究成果等を広くアピールした。また、出展に際しては可能限り学生を出展スタッフとして参加させ、コミュニケーション能力の向上を図っている。学生本人の満足度も高く教育効果も高いため、今後も引き続き参加勧奨を行う。

今後も各イベントの趣旨、開催規模、来場者層等及び出展条件等を勘案しつつ出展を行う。

イベント名	開催日	開催場所
鳥取県魅力発見イベント	4／22～24	大阪市
とっとり産業フェスティバル2011	8／26～27	鳥取市
全国豊かな海づくり大会	10／29～30	鳥取市
エコプロダクツ2011	12／15～17	東京都江東区
中国四国地域アグリビジネス創出フェア	12／16	岡山市
NIKKO フェア（日興商会ビジネスフェア）	H24.2／2～3	兵庫県尼崎市

[産官学連携推進事業]

地方公共団体や各種団体が主催する連携推進のための会議・会合に本学教職員等が参加し、商工会議所との交流会にも参加した。平成24年度も引き続き上記会合には参加することで地域交流と産官学連携を推進し、地域との連携による具体的成果創出の向上、社会貢献に努める。

事業名	開催日	開催場所
中国地域産学官コラボレーション会議	7/20	岡山市
中国地域産学官連携コンソーシアム	H24. 3/28	鳥取市
鳥取県中部地区産学官連携推進連絡会	6/6	倉吉市
鳥取県地域産業活性化協議会	H24. 2/15	鳥取市
鳥取テクノヒルズ	7/25、H24. 1/26	鳥取市
鳥取環境大学を支援する会総会	7/14	鳥取市
鳥取市、鳥取商工会議所との産学官連携懇談会	H24. 2/23	鳥取市
鳥取大学産学・地域連携推進連絡会	4/12、5/10、6/14、 7/12、8/9、9/13、1 1/8、H24. 2/14	鳥取市
とっとり産業フェスティバル実行委員会	5/26、6/27、11/22	鳥取市
鳥取市企業立地促進連絡会	H24. 2/8	鳥取市
ほんまちクラブ	7/6、8/26、 H24. 2/7	鳥取市
中部元気クラブ	5/18、8/22、 H24. 1/23	倉吉市
米子6:00クラブ	4/22、6/17	米子市

(8) 環境関連活動

ア 監査

[更新審査関係]

平成24年1月17日、18日の2日間、株式会社日本環境認証機構による更新審査を受審し、審査結果は「合格」であった。

[内部監査関係]

内部監査を以下の通り実施した。

内部監査員養成：9月22日～9月26日・27日

内部監査実施期間：11月14日～12月5日

内部監査責任者：建築・環境デザイン学科 教授 十倉毅

内部監査（教職員11人、学生14人）：12チーム編成で13部署を監査

理事長への中間報告及び最終報告：平成24年1月31日、3月26日

学生の内部監査員の不足と内部監査員の個々の資質と力量の差が問題点であった。資質と力量の差については、監査時の共通チェックリストの作成により監査の標準化を図った。学生の内部監査員については、継続的に募集して行くとともに、ISO指導教員についても専任担当教員を配置していく。

イ CO2削減等の学内環境啓発活動

CO2削減、ゴミ分別、ゴミの再資源化、コピー用紙の有効活用、通勤・通学时自動車燃費軽減の自主的取組、講義棟・学生研究室の空調温度管理、電気製品・パソコンの帰宅時コンセントはずし、昼食時の消灯等に取り組んだ。

取組み内容	備考
CO2削減学長プロジェクト	継続
BDF使用スクールバスの運行	TUES スクールバス、デリカ
事務用品・パソコン等のグリーン製品購入	継続
学生へのISOレクチャー	前期・後期ガイダンス時に実施
学生への景観通信簿アンケート	4月・9月実施 学生ISO委員会
学生一斉清掃	4/23、7/9、12/3実施 学生ISO委員会
ペットボトルキャップ・紙パックの回収	学生ISO委員会
割り箸の回収	継続
リターナブル食器の使用とゴミの分別回収コーナーの設置	環謝祭（学園祭）で実施

ウ 環境報告書の作成

平成24年度中に作成する。

エ TEAS事業

[TEAS審査業務実績]

I種審査 2件

II種審査 15件（高等学校15校）

II種審査では学生が副審査員として参加しており、学生の教育と高等学校へのPRにも繋がった。

[学生ISO委員会活動の推進]

鳥取環境管理システム(TEAS)の審査への参画や、県内高校での環境活動報告を行った。また学生ISO委員会の活動が平成23年度学生年度表彰を受け、その活動が評価された。今後もさらに活発な活動を続けていく。

(9) 情報メディアセンター関連

利用実績等

実施内容	実績
図書館開館日数	243日
来館者（学生・教職員・学外者を含む延べ人数）	60,252人
図書資料貸出冊数	8,519冊
視聴覚貸出回数（学生は館内のみのため数に含まない）	71回
パソコン貸出回数	312回
相互貸借依頼件数（文献複写・現物貸借）	90件
相互貸借受付件数（文献複写・現物貸借）	126件
鳥取県立図書館、鳥取市立中央図書館との連携（貸出・返却）	675冊
図書資料受入れ冊数（図書システムへの登録分）	3,382冊
雑誌受入れ種類数（図書システムへの登録分）	172種
視聴覚資料受入れ点数（図書システムへの登録分）	144点
パソコンヘルプデスク受付件数	483件
学生用パソコン修理受付件数	114件
情報コンセント点検	3月
卒業生向けのパソコンリフレッシュ対応	1回（3月）
新入生向けパソコン選定及び購入受付、設定等	12月以降随時

[蔵書点検の実施]

H22. 8/31～9/7 閉館として実施

点検対象点数：72,183点 点検結果 不明9点（うち除却対象3点）

[所蔵資料の整備、維持管理]

新学部開設のための資料整備及び資料の増加に伴う、書架全体のレイアウト変更を実施した。

なお、実施にあたってはH23. 3/1～23 閉館とした。

[商用データベースの維持管理]

5種類の商用データベースの契約を維持し、学生へのガイダンス時、レファレンス対応時等に広く紹介し普及に努めた。

[各種協議会等への参加]

中国四国地区大学図書館協議会総会への参加、中国四国地区私立大学図書館協会研修会、鳥取地区図書館実務者連絡会の主催、鳥取県大学図書館等協議会への参加など積極的に他管との連携を図った。

[紀要発行]

平成24年3月に鳥取環境大学紀要第9号・10号合併号を500部刊行した。掲載論文4件、報告6件の他退任記念講演3件を掲載した。

[稼働中のシステム（ハードウェア及びソフトウェア）の維持管理]

各サービスを維持するための保守・メンテナンス作業及び障害発生時の対応を随時実施した。

[ソフトウェアライセンスの維持管理]

利用者へのサービスを維持・継続するための契約を維持した。

[平成24年度新入生向け教材パソコン]

平成23年12月に公募を行い富士通製のパソコン（LifeBook SH54/G）を選定した。

[教職員への支援活動]

教職員からの電話、メール、来訪等による依頼に随時対応を行った。

[システムの更新等]

- ・全学ネットワークの老朽化（保守の満了）に伴うシステムの入替えを実施した。
- ・公立大学化に伴う会計制度変更対応のために、財務・管財システムの入替え作業及び人事・給与システムの変更を実施した。

(10) 法人運営管理

ア 理事会の開催

区 分	開催時期	議 案 等
第58回	5/26	学部学科の設置に関する届出について、平成22年度事業報告書及び収支決算について、評議員の選任について、諸規程の改正について 等
第59回	7/25	鳥取県及び鳥取市への財産の寄附、平成23年度予算の補正（第1回）について、理事の選任について 等
第60回	9/27	寄附行為の改正について、金融資産の取扱方針について 等
第61回	11/23	鳥取環境大学の設置者変更及び設置者変更に係る契約締結について、学校法人鳥取環境大学の解散について、学校法人鳥取環境大学の解散に伴う残余財産の処分について、平成23年度予算の補正（第2回）について 等
第62回	H24. 3/28	平成23年度予算の補正（第3回）について、平成24年度予算について、学校法人鳥取環境大学の解散に伴う清算人の選任について 等

イ 評議員会の開催

区 分	開催時期	議 案 等
第42回	5/26	学部学科の設置に関する届出について
第43回	5/27	平成22年度事業報告及び収支決算について 等
第44回	7/25	鳥取県及び鳥取市への財産の寄附、平成23年度予算の補正（第1回）について、理事の選任について 等
第45回	9/26	寄附行為の改正について 等
第46回	11/21	鳥取環境大学の設置者変更及び設置者変更に係る契約締結について、学校法人鳥取環境大学の解散について、学校法人鳥取環境大学の解散に伴う残余財産の処分について、平成23年度予算の補正（第2回）について 等
第47回	H23. 3/26	平成23年度予算の補正（第3回）について、平成24年度予算について 等

ウ 業務運営理事会の開催

日常的な管理運営事項等を審議するために、業務運営理事会を計4回開催し、次に掲げる事項についての報告も行った。

- ・ 例月の業務の執行状況及び月次決算書等の報告
- ・ 学生の活動状況及び異動（休退学など）状況
- ・ その他大学行事の実施状況など必要と認める事項

2 法人の概要

(1) 学校学部・学科等

設置学校名	学部・研究科・課程名	学科・専攻・附属施設等名
鳥取環境大学	環境情報学研究科	環境情報学専攻
	環境情報学部	環境政策経営学科 環境マネジメント学科 環境・建築デザイン学科 情報システム学科

(2) 入学定員、学生数の状況

学部名	学科名	学部定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号
環境情報学部	環境政策経営学科	99	1	398	学士(環境政策経営学)
	環境マネジメント学科	99	1	398	学士(環境マネジメント学)
	環境・建築デザイン学科	39	1	158	学士(環境・建築デザイン学)
	情報システム学科	39	1	158	学士(情報システム学)
計		276	4	1,112	—

大学院	領域名	入学定員	収容定員	学位又は称号
環境情報学研究科	社会環境学領域	10	20	修士(環境情報学)
	環境デザイン領域	5	10	
	情報システム領域	5	10	
計		20	40	

(3) 教職員・役員の概要(平成24年3月31日現在)

ア 役員

理事長	副理事長	常務理事	理事	理事計	監事
1	1	1	9	12	2

イ 教員

学長	副学長	研究科長
1	2	1

環境情報学部	教授	准教授	講師	助教	助手	計
環境政策経営学科	5	3	1	0	0	9
環境マネジメント学科	11	1	1	0	0	13
環境・建築デザイン学科	4	3	0	1	0	8
情報システム学科	7	1	4	0	0	12
人間形成教育センター	2	2	2	0	0	6
計	29	10	8	1	0	48

* 環境政策経営学科並びに環境マネジメント学科に副学長1名ずつ含む

* 環境マネジメント学科は特任教授2名含む

* 環境・建築デザイン学科に研究科長1名を含む

ウ 事務局職員

事務局長	次長	総務課	企画広報課	入試室	教務課	キャリア支援課	図書情報課	合計
1	1	10 (3)	11 (6)	3 (1)	6 (2)	7 (3)	6 (2)	45 (17)

* () は出向職員、常駐参与、嘱託職員並びに派遣職員で内数

* 大阪駐在、高校訪問担当等の参与は含まず

3 財務の概要

(1) 経年比較

【消費収支】

(金額単位：百万円 (端数四捨五入)、< >内は前年対比：%)

科目	13年度	14年度		15年度		16年度		17年度		18年度	
学生納付金	659	1,053	<159. 8>	1,389	<131. 9>	1,673	<120. 4>	1,525	<91. 2>	1,352	<88. 6>
地方公共団体補助金	1,849	1,070	<57. 9>	609	<56. 9>	221	<36. 3>	28	<12. 7>	24	<85. 7>
国庫補助金	0	0		0		0		173	<->	159	<92. 4>
その他	79	82		67		60		82		33	
消費収入計(A)	2,587	2,041	<78. 9>	2,065	<101. 2>	1,954	<94. 6>	1,808	<92. 5>	1,568	<86. 7>
人件費	701	774	<110. 4>	800	<103. 4>	799	<99. 9>	765	<95. 7>	786	<102. 7>
教育研究経費	665	799	<120. 2>	829	<103. 8>	821	<99. 0>	689	<83. 9>	587	<85. 1>
管理経費	279	296	<106. 1>	323	<109. 1>	282	<87. 3>	300	<106. 4>	264	<88. 2>
その他	0	3		5		3		1		3	
消費支出計(B)	1,645	1,872	<113. 8>	1,957	<104. 5>	1,905	<97. 3>	1,755	<92. 1>	1,640	<93. 5>
(A)－(B)	942	169	<17. 9>	108	<63. 9>	49	<45. 4>	53	<108. 2>	△72	<-136. 3>
科目	19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		
学生納付金	1,157	<85. 6>	935	<80. 8>	791	<84. 6>	694	<87. 7>	795	<114. 5>	
地方公共団体補助金	23	<95. 8>	19	<82. 6>	17	<89. 5>	48	<282. 4>	22	<45. 8>	
国庫補助金	164	<103. 1>	137	<83. 5>	172	<125. 5>	192	<111. 6>	195	<101. 6>	
その他	98		113		134		88		244		
消費収入計(A)	1,442	<92. 0>	1,204	<115. 3>	1,114	<92. 5>	1,022	<91. 7>	1,256	<122. 9>	
人件費	765	<97. 3>	731	<83. 5>	738	<101>	677	<91. 7>	724	<106. 9>	
教育研究経費	579	<98. 6>	605	<95. 6>	638	<105. 5>	625	<98. 0>	702	<112. 3>	
管理経費	223	<84. 5>	233	<104. 5>	221	<94. 8>	210	<95. 8>	255	<121. 4>	
その他	0		70		2		1		121		
消費支出計(B)	1,567	<95. 5>	1,639	<104. 5>	1,599	<97. 6>	1,513	<94. 6>	1,802	<119. 1>	
(A)－(B)	△125	<-173. 6>	△435	<-345. 2>	△485	<-111. 5>	△491	<-101. 2>	△546	<-111. 2>	

【貸借対照表】

(金額単位：百万円) ※建物等の有形固定資産が年々減少しているのは減価償却の為

科 目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
土地	6,008	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026
建物	7,603	7,354	7,071	6,795	6,512	6,228	5,944	5,666	5,381	5,139	4,855
教育研究用機器備品	682	584	471	355	231	184	146	115	71	26	28
図書	194	239	247	259	263	266	270	274	277	280	292
現預金・引当資産	1,877	2,551	2,988	3,521	3,869	4,152	4,315	4,220	4,084	3,951	3,778
その他	164	136	128	109	84	61	57	69	45	113	122
資産計①	16,528	16,890	16,931	17,065	16,985	16,917	16,758	16,370	15,884	15,535	15,101
退職給与引当金②	12	22	35	47	43	42	44	44	47	65	0
未払金③	119	136	64	120	45	49	42	55	37	47	206
前受金④	355	293	268	248	192	160	111	114	116	180	195
その他負債⑤	10	20	7	7	5	4	8	13	11	12	15
基本金⑥	15,057	15,275	15,306	15,342	15,346	15,380	15,396	15,423	15,438	15,485	15,462
翌年度繰越消費収入超過額⑦	975	1,144	1,251	1,301	1,354	1,282	1,157	721	236	△254	△777
②～⑦計 (=①)	16,528	16,890	16,931	17,065	16,985	16,917	16,758	16,370	15,885	15,535	15,101